

- I. 日時: 平成30年10月11日(木) 18:30~20:30
II. 場所: 公益社団法人 私立大学情報教育協会(Glexaによるテレビ会議)
II. 出席者: 片岡座長(G)、神原委員(G)、山元委員(G)、原島委員、中山委員(G)、二瓶委員(G)
事務局: 井端事務局長、森下 ※(G)はGlexaでの参加

III. 資料

- 資料① ICT活用による分野横断型授業設計案(30年8月27日)
資料② ICT活用による分野横断型授業資料
資料③ 医療系フォーラム実験授業参加学生の状況
平成30年度第3回委員会議事概要

IV. 議事概要

1. 実験授業詳細設計(案)について

片岡座長から、前回の検討を踏まえ、修正した「実験授業詳細設計案(30年8月27日版)について説明が行われ、検討した結果以下の部分を修正することにした。」

4. 一般目標

健康長寿社会で活躍できる医療人になるために、分野横断して社会の問題に取組み、多分野の学生とともに主体的な学びの能力を身につける。

(修正案)

健康長寿社会で活躍できる人材となるために、分野横断して保健、医療、福祉・介護、栄養に関連する社会課題に多分野の学生とともに取組み主体的な学びの能力を身につける。

5. 学生が身につける能力(コンピテンシー)

表1「分野横断型授業のプロダクトに関するルーブリック評価」と1)~5)の表現を合わせて検討した結果、思考力と判断力を4)に追加するなどの修正を行った。

- 1) 与えられた情報を鵜呑みにせず、複数の視点から問題を発見できる。

(修正案)

与えられた情報を鵜呑みにせず、複数の視点で問題を発見できる。

- 2) 自分の意見を分かりやすく他者に伝え、他者の意見を傾聴し、積極的で効果的なグループ討議ができる。

- 3) 問題解決のために、エビデンスの高い適切な情報を活用できる。

(修正案)

社会的な課題解決のために、エビデンスの高い適切な情報を活用できる。

- 4) ※ 思考力と判断力が入っていないので以下を3)と4)の間に追加で入れる。

自分の考えを持って独自の解決策を論理的に考えられ、優先度を付けて合理的に説明できる。

- 4)→5)

問題解決のプロセスとその結果について、分かりやすく発表しレポートを書ける。

(修正案)

社会的な課題解決のプロセスとその結果について、分かりやすく発表しレポートを書ける。

- 5) →6)

適切な自己評価とさらに改善する方法を模索できる。(修正なし)

本日検討した内容を踏まえて、最終的な修正については片岡座長に一任することにした。

上記の修正にあわせて、表1「分野横断型授業のプロダクトに関するルーブリック評価」の観点を以下のように修正する。

問題発見 → 課題発見に修正

問題解決 → 課題解決に修正

表1「分野横断型授業のプロダクトに関するルーブリック評価」の「課題解決」の「観点」、「観点の説明」、評価レベル1から3については、5.「学生が身につける能力(コンピテンシー)の修正、新たに追加した4)「自分の考えを持って独自の解決策を論理的に考えられ、優先度を付けて合理的に説明できる。」にあわせて表現を見直し、修正することにした。

※ 例えば、「自職種の未来像についていくつかの可能性を検討した上で提案している」の「自職種の未来像」→「時職種の課題解決」なども含めて検討する。

なお、最終的な修正については片岡座長に一任することにした。

2. 実験授業の事前準備について

実験授業の内容、事前準備について、Glexa の環境を用いて片岡座長から説明が行われた。

(1) 事前準備の状況確認

- ① 学生用ガイドとファシリテーター用ガイドの概要説明
- ② 授業の進め方を逐一説明する学生用ガイドの概要説明
- ③ プロブレムマップ作成機能のデモ
- ④ グーグルドキュメントを用いてグループで共有作業するイメージの説明、ネット授業で使うソフトや機能の概要説明

(2) 学修教材、ICT 環境のチェック、学生の確定と授業に向けた事前準備について

- ① ICT 環境のチェックと ICT オリエンテーション（授業実施 2 週間前には完了）
- ② 参加確定学生への機能チェックとネット上のインタビュー（必要に応じて）
- ③ 参加学生による機能チェック、自己紹介を兼ねたテスト通話、掲示板機能を活用したプロブレムマップの作成練習等
- ④ グループのテストネット授業を実施し、例題についてグーグルドキュメントを用いてグループで共有して、ネット授業で使うソフトや機能をあらかじめ練習する。

(3) 動画教材の確認

- ① 超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオ（人生 100 歳時代という、カナダの心臓病学会のビデオ）、医療経済、AI（人工知能）「医療への活用（by ワトソン）」などの確認を行った。

なお、医療経済は、最終的な編集が終わっていないため、次回（9月11日）に確認する。

※ Glexa の環境で動画を確認したが、読み込みに時間がかかるので、場合によっては各自が事前に試聴することも検討する。

② 参考資料の確認

- * 「地域包括ケアと多職種連携-学習用ワークブック-（日本医師会）
- * 「平成 29 年度版 介護と保健ガイドブック（日本保健情報コンソシウム）等

(4) 倫理委員会申請と同意書

昭和大学の審査は終了、各大学で委員に進めていただく。

昭和大学で準備の書式を片岡先生から提供していただき各委員にメールでお送りする。

(5) 参加学生について

資料③で現在の状況を確認し、看護についてはグループ1、2とも北海道医療大学にお願いすることにした。

- ① 医学 : グループ1、2とも各1名を東邦大学にお願いする。(高松先生)
- ② 歯学 : グループ1の1名を昭和大学にお願いする。(片岡先生)
グループ2の1名は北海道医療大学にお願いする。(二瓶先生)
- ③ 栄養 : グループ1、2とも各1名を神奈川工科大学にお願いする。(原島先生)
- ④ 福祉 : グループ1、2とも各1名を日本社会事業大学にお願いする。(小原先生)
- ⑤ 看護 : グループ1、2とも各1名を北海道医療大学にお願いする。(二瓶先生)
- ⑥ 薬学 : グループ1の1名は北海道医療大学にお願いする。(二瓶先生)
グループ2の1名は昭和大学にお願いする。(山元先生)

※ 9月初めから学生への面談や動機付けを行うため、氏名、学年、学部・学科、連絡用メールアドレスを確定次第事務局に連絡いただくことにした。

※ 第1グループの自己紹介を兼ねたテスト通話、事前練習を2回行うことにし、1回目は9月18日、2回目は9月24日を候補に時間等を調整する。

※ 事前練習は、第1グループの学生6名、ファシリテータ小原先生、コーディネーター二瓶先生、システムのサポート Version2 大西様が入る。

3. 次回委員会

次回は9月11日(火) 18:30からGlexaで開催する。